



大正十一年四月
大隈侯爵寄贈

英國女王ウヰクトリア即位第二十二年是第二十年制定成文律第三十四篇ベクシヨシオスライトノ手續ノ部改革

抑モ此條例ヲ發行セルノ意タルベクシヨシオスライトノ手續ノ簡易ニセントスルニアリ復令ヒ此條例ヲ布キシト雖モ何ガ許願ノ捺印若シクハ如何ナル損害ノ償ボ凡ソ國王ニ對シテ許願請求スルモノニシテ此條例ノ發行以前ニ所有セサル所ノモノノ人民ニ付与セレニアラス
嚮キニ此條例ノ未ダ頒布セラレサル以前ニ於テヤトベクシヨシオスライトノ手續タル錯雜無用ノ手数ヲ免カレサリシカ一朝此條例ノ頒布アリテ以還之レカ前以テノ處方簡易ヲ致ヒリ令試ニニ其一ニテ舉ケレハ現ニ

「ベ」テレヨシ、オス、ライトノ審案ニ際レ処分ノ手續キタル
恰カモ人民相互ヒノ間ニ起リタル訶訟ノ処分方ト曰一
ナリ將又裁判ノ断結一層迅速ニシテ其曲直ノ別一層満
足ナルト是ナリ

仮令此條例ヲ布キ更ニ訴願ノ手續ヲ改正簡易ニセシ
夫レ此ノ如レト虽モ若レ又人民中其旧式ヲ好ムモノア
レハ願意ニ之ヲ履行スルヲ得ルモノニシテ決シテ此權
ヲ剥奪セシモノニアラス當ニ此條例ノ主トスル所ハ一
層良全ノ手續ヲ制定シ「ベ」テレヨシ、オス、ライトノ訴願人
ヲレテ此手續ヲ履行スヘキヲ許ルニシアルハミ
余カ聞キ及ヒタル所ニテハ「ベ」テレヨシ、オス、ライトノ旧
式ハ全ク地ニ墜テ之ヲ施用スルモノ絶ヘラナレ
第一 凡ソ「ベ」テレヨシ、オス、ライトノ願旨ニハ必ス其表

面ニ訴願ノ審案アラシムヲ欲スル裁判所ノ宛名ヲ届マ
ベレ但レ右ノ裁判所ハ人民相互ヒノ間ニ起リレ訶訟ニ
関レ訴出ツヘキ裁判区ノ裁判所ニ宛ルモノトス

右願旨ハ左ニ掲載セル第一号格式ノ通リ英國女王陛下
ニ宛テヤルヘカラス
且又右願旨ニハ訴願人ト其代言人(仮令何人タリトモ)ノ
姓名及ニ住所ヲ記載レ又何ボノ事實アツテ願旨ヲ差出
スヤ願旨ノ趣意ヲ簡明ニ届セラルヘカラス且又訴願人
ハ勿論其代言人タル者ニ記名調印スヘキモノトス

第一号格式
〇〇〇 裁判所ニ於テ

女王陛下ニ呈ス
何府縣何大區何小區何町村何番地何屋何平ノ人者何府

縣何人區何ノ区何町村何番地何屋何平ヲ代言人ニ頼
(代言代ニ依頼セズ本人ヨリ直ケニ願出ツルハ以上)
印ノ文ヲ省ク)謹シテ○○○(願訴ノ趣意ヲ記レ且ツ其箇
条合レテ幾件ナルヲモ依セ昏スベレ)ノ件ヲ訴願ス
是ニ依テ訴願人某謹シテ○○○(其請求スルレリイフ)ノ
事ヲ記スヘレ)ノ儀聞届ケアラシトテ歎願ス

年月日

本人某

代言人某

第二 右願者ハ先ツ内務卿ノ呈スヘキモノトス是レ此
願者ヲ内務卿ヨリ女王陛下ニ上奏シ以テ女王陛下ノ恩
聽ニ達セシメシカ為メニシテ女王陛下カ君レ此訴願ノ
趣意ヲ左當ト考定スルハハライドポロドロン(正當ノ処

分アルヘレトノ意ナリ)ノ勅命ヲ得シカ為メナリ
斯リ願者ヲ差出スニ於テモ又此ノ願者ノ下ケ度シアル
ニ於テモ訴願人ヨリハ一ノ出費ヲ要セスレテ謝金ヲ辨
フニ及ハサルモノトス
第三 前文ノ如ク女王陛下ノ許可ヲ得タル上ハ右願者
ノ馬鹿ホ一左ノ第二号格式ノ通り裏昏ヲ為シテ以テ大
藏州属ノ代官局ニ差出スヘキモノトス(凡ソ法律上ニ涉
リタル事件ニシテ政府カ直接ニ関係スルモノハ一切右
ノ代官局ニ於テ取リ扱フモノトス)

第二号格式

訴願人謹シテ此願者差出ノ当日後二十八日以内ニ願訴
ノ趣意ニ對シ女王陛下ノ為メニ答弁アレンヲ乞フ是
ヲ以テ若レ右日限以内ニ答弁ナケレハ此願訴ハ聞届ケ

ラレタルモノト承知セラルル一キトテ歎願ス

第三 右大蔵附屬ノ代言官ハ此願旨ノ写ヲ受ケ取リ則チ之ヲ此訴願ノ趣旨ニ関係アル旨詠ノ官廳ニ差送ルヲ其務メトス是ヲ以テ此願訴ノ事件ハ願旨中ニ記載アル裁判所カ若シクハ又司法卿ヨリ指令スル処ノ他ノ裁判所ニ於テ審案スヘキモノトス

第四 凡ソ此願訴ノ趣旨ニ付キ女王陛下ノ為メニ答弁スルノ日限ハ願旨差出ノ当日後二十八日以内タル前文ニ開陳スルカ如シト虽モ願旨ニ依リテハ(詠者按スルニ)當詠ノ官廳ヨリ願出スルモノナラシ(裁判所若シクハ裁判官ヨリ延期ヲナストアルモノトス)

又司法卿ハ女王陛下ノ代言長ノ願旨ニ依ルカ若クハ訴願人ノ願旨ニ依テハ願訴ノ事件ヲ審案スヘキ裁判所即チ裁判

所トシテ變轉スルトアルモノトス

第五 凡ソレヨシカラスラトシノ主意タル女王陛下ヨリ他人ニ渡セシ財産ヲ取リ戻カントスル請求ニ関セハ此財産ヲ受ケ取リタル人ハ此旨ヲ報知レ且ツ第三第四兩章ニ記セル手續各ノ写ヲモ四人ニ回付セシハアルヘクテス其外又左ノ文ヲ四人ニ送達セシムルハアルヘカラヌ

第三号旨式

被告

何之誰

其訴此願訴ノ趣旨ニ付キ○○○裁判所ノ令日ヨリ八日以内ニ出頭レ十四日以内ニ其答詠并解ヲ為スヘシ然ルニ若シ其訴右日限通リ出頭セサルカ或ヒハ又答詠并解ヲ為サハルトアレハ審案ノ上其訴ノ権理相立ヲ

ル時ト曰様此願訴ヲ聞届ケタル旨ヲ指令セラレ、
了アルヘレ此段豫テ心得置キアルヘキ事

年月日

原告

何之誰

是ヲ以テ若レ前段ノ呼出ヲ受ケタル人出頭セサルカ或
ハ又答議并解ヲ為カ、ル丁アレハ審案ノ上向人ノ権理
相立ナル時ト曰様此願訴ヲ聞届ケタルモト為ヌナ
然ルニ若レ其人出頭スルハ左ノ第四号格式ヲ以テ届
出ルモノトス

第四号格式

〇〇〇裁判所ニ於テ

女王ニ對スル「ベタレヨン、オスライ」トノ訴願人何之誰

呼出レテ受ケタル人(自身出頭)何ノ誰

代言人(呼出テ受ケタル人自身出頭セ)何ノ誰

右出頭ニ付此段届出候事

年月日

但シ若レ呼出ヲ受ケタル人自身出頭スルハ其人
ノ居住ボヲ記載ス可レ

然ル上ハ此呼出ヲ受ケタル人ハ其呼出届中ニ記載アル
日限以内ニ答議并解ヲナサ、ルヘカラス若レ又裁判所
若レハ裁判官ヨリ右日限ノ延期ヲ許可スル丁アルハ
ハ其延期日限中ニ之レヲ為スヘキモノトス

第六 凡ソ事實ノ是非ト法律上ノ曲直トニ関レ答議并
解ヲ為スニハ須テク女王陛下ノ為メニ女王ノ代言長ノ
名ト前文ノ如ク該願訴ニ就テ答并ヲ為スタノニ呼出ヲ受

ケタル人又ハ其代言人ノ名ヲ以テ之ヲ行フモノトス但
レ此ボノ事ハ此願訴タル恰カモ人民相互ヒノ間ニ起リ
レ通常訴訟ノ手續ト相異ナルヲナシ
仮令ヒ法律上カ若レクハ事実上ニ於テ答弁トナルハキ
善証アリテ女王陛下若シ之ニ依テ答弁ヲ為セハ前文ノ
手續ヲ以テ該願訴ニ就テ答弁ヲ為スヲメニ呼出テ度ケ
タル人モ均ク又之ニ依テ答弁ヲナスヲ得ヘレ
第七 一ケレヨシオスライトノ手續此場合ニ至リタル
氏ハ其後ノ手續ハ人民相互ヒノ間ニ起レ通常訴訟ノ
手續ト同一ノモノナリ且又此條例ニ依リ此條例ニ遵ヒ
時ニ設ケ定メタル如何ナル諸戒例トモ矛盾セサルヤ
ハ人民相互ヒノ訴訟ニ用ユル所ノ訴訟法ニ其規則ノ
之ニ適用スルモノトス將又特別ノ條理ニ依リ裁判所ヨ

リ更ニ例外ノ命ヲ下スニアラザレハ之ヲ適用スルモノ
トス
然リト雖モ既ニ前文ノ初メニ論述セシ如ク此條例中載
スル所ノ一箇條ナリトモ凡ソ人民カ女王ニ對シテ請求
ヲ起ス権理若レクハ續テ求ムルノ道ゴニレテ此條例ノ
發行以前ニ嘗テ所持セサレ所ノモノヲ更ニ人民ニ付
与セレモノナレ
第八 此願訴ニ就テ答弁セラルカ或ヒハ又其審査中均
レク答弁ヲ為シ難キヲアル氏ハ裁判所ニ於テハ訴願人
ノ願ニ依リテハ此願訴ヲ聞届ケタル旨ヲ指令スルヲア
ルモノトス
女王ノ為メニ答弁ヲナス為シ裁判所ヨリ呼出テ受ケタ
ル時ニ答弁セサル場合ニ於テハ訴願ヲ聞届ケラレタル旨

原告ヨリ被告一通知スヘキモノトス尤モ裁判所ハ此
ク開届ケタル旨ヲ申渡セシエテモ之ヲ取消スヘキ
ク至当ナリト考察スルハ何時モ然ルヘキ約束ヲ設ケ
之ヲ取消スヲアリトス但レ女玉ニ関ハル訴願ノミナラ
ズ其他ノ訴願ニ付テ答弁ヲナサン為メ呼出ノ受ケタル
人答弁ヲナサハルハ此法規ヲ適用スルモノトス
第九 凡ノ諸願訴ニ付テ裁判所ノ判決ヲ下スハ必ス左ニ
述フルカ如レ即チ訴願人ハ其請求セシメリクノ全部
若レクハ其一部ヲ許容セラル、カ或ヒハ之ヲ許可セラ
レサルニヤリ或ヒハ又裁判所ニ至当ト考察スル其他
ノコトアリテ許容セラル、コトアリ而シテ此ノ裁判所ハ訴
願人ニ斯ルコトヲ許可スル旨ノ宣告ヲ為スモノト
ス但レ裁判所ニ至当ト考察スル約定ヲ以テ斯ルコト

コトヲ許可スルハ又其旨ヲ宣告スルモノトス
第十 若レ裁判所ノ裁決タル訴願人ノ勝利トナルハ
其裁決ノ効力ニ依リ直チニ女玉ハ無テ訴願人ヨリ取リ
戻シテ之ヲ請求シタル財産訴願ノ主旨財産ナレハノ所
有權ヲ失フモノニレテ此際尚ホ法律上ニ就テ何オノ手
続ヲモ經サルモノトス則チ之ヲ通言ニテ説クハ裁判所
ノ裁決ヲ以テ許容セラレタルコトハ其何物ナルニ
関ハラス其場ニ即チ訴願人ニ付与セラレ川渡し済
ミニナリタルモノト見做サルナリ
以上述ナル所ハコトガバビクシヨシ(法律上ノ推測トス)
ノ一種ナリト雖モ素此リコトガルヒクシヨシハ憲法中ノ
緊要トシ基礎トスルニケテ条ノ格言ニ根拠スルモノナリ
請ヲ試ミ之ヲ左ニ述ヘシ

第一 凡ソ王タル者ハ令裁判所ノ裁決ヲ以テ正理ナル
トテ通知レ其証理ナルヲ知レハ即チ立列ニ之ヲ行フ
モノナリ即チ王者ハ為スヘキ理ヲ知ラハ直チニ之ヲ為
スモノナリ

第二 凡ソ王タル者ハ法令ニ何事アルモ其幕下ノ官吏
ノ手ヲ經己レニ對シテ法律ヲ實施セシムルヲ要セズ隨
ツテ又實施セシメサルヘシ

凡ソ王者ニ對シテハ一回モ法律上ノ手續ヲ施行スル
ナキモノトス是レ右ノ点ニ付テ恒ニ記憶レ置カスルハ
アルヘカヲサルモノナリ

第十一 凡ソ訴願人ノ推理相立タル時ハ訴訟入費ハ女
王陛下ノ為メカ若シクハ又「ベチシヨ」オスライトニ付
テ答弁ヲ為スタマニ呼出ラ受ケタル人ノ為メカ此兩者

孰レノ為メニモヨ人民相互ニ間ニ起リレ通常訴訟
ノ如キ同一ノ手續ト同一ノ方法トヲ以テ訴願人ヨリ并
全セシムルモノトス

斯ノ如ク女王陛下ノ為メニ訴訟入費ヲ訴願人ヨリ并全
セシメタル氏ハ之ヲ「エキスキエ」フカレニ納ムルモノトス

第十二 裁判所ノ裁決タル訴願人ノ勝利トナル氏ハ恰
モ人民相互ニ間ニ起リレ通常訴訟ノ如キ同一ノ手續
ガヲ以テ女王陛下ヨリ訴訟入費ヲ受取ルハ權アリ且又

「ベチシヨ」オスライトニ付テ呼出ラ受ケタル答弁人ヨ
リモ均レノ訴訟入費ヲ受取ルハ權アリ此外尚モ訴願人
ハ償ヲ請求レ訴訟入費ノ押渡シヲ督促スルノ權ヲ有ス

ル「恰」モ人民相互ニ間ニ起リレ通常訴訟ニ於ケルカ
如シ然リト雖モ直チニ女王ニ對シテオシタル訴訟ニ於

大義

テハ其入賞ノ辨渡レテ督返スルノ權ナレ右ハ第十章ニ
記載セル如ク裁判ノ実行ヲナスルハハナルト曰レ道理
ナシ

第十三 裁判所ノ裁決タル訴願人ノ勝利ト決レリ
コレヲ曰人ニ付与スルヲニ決スルカ若レクハ又訴訟入賞
ヲ曰人ノ辨渡スヘキ命令ヲ下スルハ裁判所ノ裁判官ハ
訴願人ノ願ニ依リ右裁決ノ当日或ハ右命令ノ当日ヨ
リ十四日ヲ過キ右裁決状ノ写及ヒ主意旨或ハ右命令
状ノ写及ヒ主意旨ヲ左ノ第五号格式或ハ曰文意ノ格式
ヲ以テトレジュリトニ通知スルモノトス

第五号格式

女王陛下ノ大蔵卿ニ呈ス
〇〇〇裁判所ニ於テ何ノ誰ノトベテレオン、オスライ

余謹シテ爰ニ某年某月某日前居〇〇〇裁判所ニ於テ右
訴願人何ノ誰カ何々ノ権理ヲ付與セラレタルトニ裁決
セシメテ申呈ス(事訴訟入賞ニ関スレハ命令ヲ下セレト
記ス)

年月日

裁判官記名

第十四 〇〇ムニワレヨ子ルオストレジュリトハ此トベテ
レオン、オスライトノ條例ヲ以テ凡ソ如何ナル金額ナル
ニモセヨ如何ナル訴訟入賞ナルニモセヨ裁判所ニテ裁
決ヲ下シ若レクハ命令ヲ下セシモノニ係ハリ加フルニ
其裁決若シクハ命令ノ前居ノ如キ手續ヲ以テ公然ト
ニフシヨ子ルオストレジュリトハ一面ヲ出セシモノト
レハ法律上ニテ定メ置ク日限内ニ大蔵省所有金ノ

内如何ナル用途ノ金額中ヨリモ之ヲ押渡スルキ推理所
付与セラルルモノニレテ此条例ヲ以テ要セラルル所ナ
ル
但レ以上開陳スル所ハ嚮キニ送呈セル余ノ摘撮昏中
ニ込ヘタル國王ニ對スル裁判ノ裁決オ必行ノ為メニ
特ニ設ケタル條規ナリ

本文「レソ」コ「レ」外教語ノ彙解

第一 「レソ」コ「レ」ノ彙解

此語ハ本文散ケ所ニ用ヒタルモノニレテ仮令ニ如何
ナル無形ノ権理ヲ回復セシトスルモノニモセヨ又ハ
土地若シクハ家計ヲ取戻サントスルモノニモセヨ又
ハ金額ノ并償若シクハ損害ノ償若シクハ其他ノモノ
ニモセヨ兎ニ角訴願人ヨリ「ベケレ」ヨシ、オ「スライ」ト
以テ請求訴願シ裁判所ニ於テ許可セシモノハ其事ノ
何ナルヲ論セス悉皆「レ」ト云フ

第二 「エキ」ス「エ」フ「即チ」ト「レ」ジ「エリ」ト「云フ」ハ即

本文中「エキ」ス「エ」フ「即チ」ト「レ」ジ「エリ」ト「云フ」ハ即
チ日本ニテ唱フル「レ」ト「レ」ジ「エリ」ト「云フ」ハ即
ト同キモノト承知ス可レ且又「エ」フ「レ」ジ「エリ」ト「云フ」ハ即

大蔵省

フ、ゼ、ト、レ、ビ、ロ、ハ、日本ニテ唱フル詞ニズド、ル、ビ、ア
ン、ス、デ、ロ、ア、ト、ロ、ロ、ン、ト、大威卿トト曰様ノモノト心得

ルヘシ

第三 「ベナレヨン、オス、ライト」差出方ノ事

既ニ前文ニ開陳セシ如ク凡ソ「ベナレヨン、オス、ライト」
ノ願旨ハ女王陛下ニ上奏イランガ為メニ先ツ以テ之
ヲ「レ、クレ、ア、カ、ス、カ、ト、ト、カ、ル、ゼ、ホ、ハ、テ、ア、
ト、ロ、ン、ト」日本ニテ唱フル「ミ、カ、カ、ト、ハ、カ、ホ、ハ、デ、
バ、バ、ト、ロ、ン、ト」即チ内務卿ノ交ニ呈スルモノトス是レ
内務卿ノ職タル宛ク内國限リ関係ノ事件ヲ總理スル
モノナルヲ以テヤリ
後令ニ英國ノ行方所ハ夫レ斯ノ如レト雖モ此例ヨ直
チニ日本ニ移シ行フヘキヤ否ヤニ至リテハ疑ヒナキ

能ハス熟ニ惟ミルニ日本ニ於テハ洋テ此ガノ願訴ヲ太

政官ニ差出ス方一層当然ナルニ似タリ特ニ太政官ニ
ハ法制局ノ設ケアリ以テ凡ソ法律上ニ関リタル事件
ハ專ラ此局ノ照査スル所タルニ於テオヤ凡ソ「ベナレ
ヨン、オス、ライト」ノ願旨ハ其他ノ諸訴訟ノ如ク直チニ
女王陛下ニ名宛ラサスモノトス
此案ガノ願訴ニ付テ内務卿ノ取扱振ガク深ク了知セ
スト虽モ想テ「内務卿ハ親レク女王陛下ニ稟議ヲナ
サスレテ此ガノ願訴ヲ受理スルト受理セサルトヲ決
スルノ權ヲ有スルナラン

想テニ日本ニ於テハ願訴ヲ大政大臣カ若シクハ太政
官ニ名宛スルコトニナサハ容易ニ此ガノ煩勞ヲ避ケ得
ルベシ

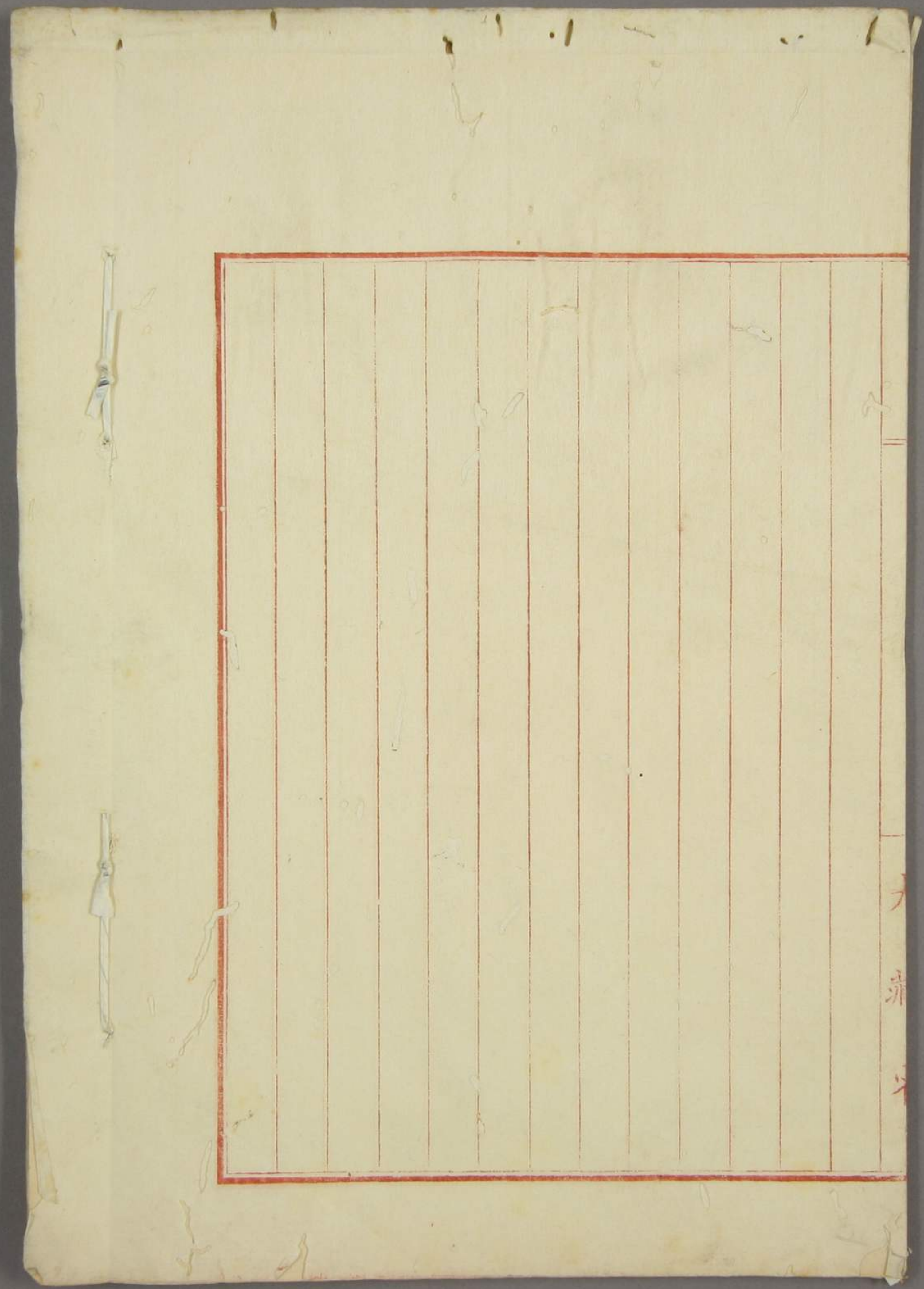
柳。モ。如何。十。八。場。合。ニ。於。テ。女。玉。ニ。對。シ。テ。フ。ケ。レ。ヨ。ン。オ。フ。
テ。何。レ。ハ。顯。訴。ヲ。ナ。ス。カ。ノ。疑。問。ハ。尚。ホ。後。日。開。陳。ス。ル。所。ナ
ラ。シ。

千八百七十八年

二月七日

ロートベルト・ド・ドン

大
義
會



九
赤
以